

社会福祉法人 広島友愛福祉会

2024 年度（令和 6 年度）事業方針・事業計画骨子

2023 年度も、厳しい収支状況が続いている。この状況から早期に脱却することが今後の事業運営において必須条件である。そのため、2024 年度の最優先方針は、収支状況の改善である。各事業所のサービスを向上させること、営業活動を実施して新規利用者・入居者を獲得すること、各事業所間の情報交換を円滑に行うことを実行していく。

また、スタッフの育成に力を入れる一年としたい。スタッフ一人ひとりが、利用者・入居者のためを一番に考えて業務を行うことを再認識し、法人全体でサービスを向上させたい。スタッフには様々な経験を積む機会を与え、個々の意識改革やスキルアップにつなげてもらいたい。

最後に、2023 年に引き続き、地域との交流を継続・発展させていきたい。

= 事業計画骨子 =

I. 黒字決算への転換

- ① 各事業所の長を認識し、営業活動を含めて外部へ発信していく。
- ② 主務者は担当事業所の収支状況を把握し、目標を達成する。
- ③ 各事業所の情報交換を円滑に行い、新規利用者・入居者の獲得を法人全体で行う。

II. スタッフ育成

- ① 入居者・利用者を中心とする介護を実施する思考を浸透させる。
- ② 個々のスタッフのスキルアップのため、様々な役割を与え、経験をさせる。
- ③ 事業所間の交流を実施し、緊急時対応等に法人全体で対応する選択肢を増やす。

III. 地域とのつながりの継続・発展

- ① ゆうあいふれあい夏まつり等を継続し、地域の会合・イベントに積極的に参加する。
- ② 保育園・小学校・中学校・高校との交流を継続する。
- ③ 民生委員・児童委員等、地域住民との交流を発展させる。

以上

2024年度 事業計画

事業所名 特別養護老人ホーム ゆうあいホーム

<p>数値目標</p>	<p>年間ベッド稼働率 97.5% (実働82床) 入所者の受け入れ環境を整え、安定経営できる稼働率になるように努める。</p>	
<p>昨年度の評価</p>	<p>良かった点・改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが施設内で感染拡大していく中で、残った少ない職員で事故のないよう業務を行った。 ・コスト削減に向けて他職種連携を行い、取り組むことができた。 ・感染症対策を全体として決まった対応ができなかった。 ・人員不足、感染症対策で通常の業務見直し、改善が行えなかった。 	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大中には、シフト変更、他部署応援、その日の職員体制に合わせて、業務内容を日々見直しながら行った。 ・アンケートを活用し、全職員の意見をくみ上げながら業務を行った。 ・無駄な備品等を他職種と話し合い、できる限りなくしていくよう取り組めた。 ・部署ごと、個人でも感染者および非感染者の対応において、マニュアルの徹底が行われていない部分があった。 ・人員不足、感染症対策での多忙を理由に通常の業務改善の意識がなかった。
<p>今年度の重点目標</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の稼働率から目標の稼働率を目指していく中で、受け入れ環境を整える為に業務見直しを行う。 ・新型コロナウイルス等の感染症に対する対応マニュアルの周知徹底を行う。 ・多職種連携にて施設ケアプランの作成を行う。 	<p>具体的な計画・方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館、新館と個別にだけでなく、特別養護老人ホームとして連携を取りながら、業務見直し、改善を進めていく。 ・指揮命令者を明確にし、指示にしたがって全員が対応していく体制を作る。 ・施設ケアマネージャーを交代し、ケアマネージャーを中心に他職種で連携しながら、定期的なケアカンファレンスを行う。

2024年度 事業計画

事業名：ゆうあいホーム短期入所生活介護事業所

数値目標	目標数値：年間ベッド稼働率75%（実働12床）	
昨年度の評価	良かった点・改善すべき点	具体的内容
	稼働率の状況は、昨年度の平均稼働率61.1%から81.1%（2023年度12月迄）と大幅に伸びた。	新規利用者の受け入れと定着化、緊急ショートも受け入れた。 ロングショートは、昨年度の14名から16名と増えた。在宅生活が困難になった方から入所を希望される利用者を受け入れた。
今年度の重点目標	重点目標	具体的な計画・方策
	新規利用者獲得	居宅から紹介を受け各部署に情報提供を行い、速やかにサービス利用へ繋げる。
	個別レクの提供	利用者毎の希望に応じたレク（脳トレ・貼り絵・パズル）の提供を行う。
	感染症対策	部門内での課題整理、受け入れ前の感染罹患の有無の確認、送迎時の検温等を徹底する。
	災害時の対応	市内に大雨・洪水警報が発令された場合や台風が接近している時、ショートステイ又は大竹市からの要請時、福祉避難所を開所する。
経費節減	備品や消耗品の見直し等、特養と連携し支出削減に努める。	

2024年度 事業計画

事業所名 デイサービスセンター ゆうあいホーム

<p>数値目標</p>	<p>登録者数90名 一日の平均利用者数27名</p>	
<p>昨年度の評価</p>	<p>良かった点・改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者から要望が多かった訪問美容が定着した。 ・大竹市社協主催のふれあい夏祭りを7月に開催できた。 ・昨年ご利用者にデイサービスでやりたいことアンケートを実施し希望の多かった外出レクが出来なかった。 	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者変更により希望曜日に柔軟な対応して頂き希望されるご利用者に整容サービスの提供ができた。 ・健康体操・阿多田保育園児さんの発表・ピアノ演奏等の催し物やかき氷、綿菓子の提供で大盛況に終わった。 ・職員、運転手の人員体制上、外出レクの実現が出来なかった。
<p>今年度の重点目標</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者に満足ゆくケアの提供(利用者の役割や居場所作り) ・ご利用者に満足していただくレクリエーションの提供 ・経費削減 ・地域社会との関りやボランティアの受け入れを積極的に行う ・職員間の情報共有やコミュニケーションを図る為に年間2回のスタッフミーティングを行う 	<p>具体的な計画・方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画書に添った個別援助計画の作成。ケアの統一と共にカンファレンスを行い評価していく。 ・外出レクや外気浴等のレクを取り入れて気分転換を図る。また不穏状態のご利用者に対しては、寄り添い思いを傾聴し落ち着いてもらえるケアの提供を行う。また医務から感染対策の指導や体操、体の仕組みなどの講義を行っていく。 ・節電・節水に努め職員一人一人がコスト意識を持ち、節約に関してアイデアを出せる話し合いの場を作る。 ・玖波コミュニティサロンへ定期的な作品の展示を行う。市内の公民館へ訪問しチラシの配布を行う。 ・課題を洗い出しミーティングのテーマを選定し職員間の連携やチームワークの強化を図る目的で年間2回を目標に実施する。

2024年度 事業計画

事業所名 訪問介護事業所ゆうあい

数値目標	月間平均登録者数25名	
昨年度の評価	良かった点・改善すべき点	具体的内容
	・感染対策を行い、予防した。	・各自手洗いをしっかり行い、アルコール持参し手指消毒等行った。
		・検温（職員・御利用者）
		・必要に応じて、手袋、ゴーグル、予防着の着用。
		・体調管理に努めた。（健康診断・予防接種）
	・サービス見直し	・ADL 低下に伴いサービスの見直しを行い、2人体制で御利用者、介護者共に安全に行うことができた。
	・収益の確保	・空き情報を各居宅へ持参し、新規の依頼をお願いした。
今年度の重点目標	重点目標	具体的な計画・方策
	・収益の確保	・空き情報を各居宅に持参し、訪問介護事業所ゆうあいのサービス内容（介護保険、障害）をアピールする。
		・月間平均登録者数に近づけるようにする。
	・サービスの質の向上	・御利用者様を第一に考え安心、安全にサービスを提供する。

2024年度 事業計画

業所名 大竹市養護老人ホーム ゆうあいの里

<p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1日付け50名満床。 特定施設での収入目標として、毎月400万円を達成する。年間4800万円を目標とする。 	
<p>昨年度の評価</p>	<p>良かった点・改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月初1日付け50名満床にならない月が多かった。 ・転倒される方は多かったが、骨折手術を要する利用者はいなかった。 ・食事摂取困難や血液データ異常時と対応。 ・コロナ感染者拡大、蔓延。 	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所待機者の減少。待機者の獲得に動く。 ・毎月1日付け入所者50名満床を目指す。 ・見守り強化、転倒予防に努めた。 ・他職種と連携し、ADL低下予防に努めた。 ・嘱託医や栄養士等と情報共有を図り、栄養補助食品の検討や提供を行った。 ・感染対応についてスタッフ全員で見直し検討し、次につなげる対策とした。
<p>今年度の重点目標</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業績改善。毎月1日付け満床を目指す。 ・介護スタッフの介護技術向上。 ・経費の削減 ・介護統一 ・入所者の状態の把握、異常の早期発見、悪化予防に努める。 ・入所者のADL低下予防に努め、その人らしく生活出来るように支援する。 	<p>具体的な計画・方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所希望者の獲得。 ・介護スタッフの介護技術向上の為、研修に参加する ・特養本館の業務に定期的に入り、介護技術の習得に努める。 ・残業を減らす為、業務内容の見直しを行う。 ・消耗品の購入業者の変更をすることで安くいい物に変えていきたい。 ・日頃から不要な電気をを消す。 ・洗濯料金の見直しをする。 ・マニュアルの更新。 ・個別援助計画の作成。 ・入所者の様子の変化や日常生活に留意し、情報の共有を図る。 ・多職種で情報共有し、ADL低下予防に努め、その人らしく生活出来るように支援する。

2024年度 事業計画

事業所名 居宅介護支援事業所 ゆうあい

数値目標	一ヶ月に1件以上の新規利用者 獲得 及び 一人当たりの標準件数35件	
昨年度の評価	良かった点・改善すべき点	具体的内容
	10月までの新規利用者の受け入れは、ほぼ例年通りであった。3月で一名退職するため、10月より新規利用者の受け入れを中止。10月時点で要支援含む33名の担当利用者のうち、30名を他の居宅介護支援事業所及び包括支援センターへ引き継いだため、利用率は大幅に下がった。	12月給付管理：谷口33件、向井35件を最低ラインとする。4月以降の新規利用者獲得再開。
今年度の重点目標	重点目標	具体的な計画・方策
	・新規利用者の獲得	・地域包括支援センターとの連携強化 ・各病院の地域連携室と情報を共有し、速やかに在宅生活への支援を図る。 ・各研修へ参加し、資質向上を図る。

2024年度 事業計画

事業所名 相談支援センターセンターゆうあい

<p>数値目標</p>	<p>1,障がい相談支援において、新規、加算等の積極的取得し収益の確保。前年比102% (2,140千) を目標に取り組む。 2,相談支援においては、利用者、御家族の課題、問題点を的確に把握し速やかに、各関係機関を連携し課題解決に取り組む。</p>	
<p>昨年度の評価</p>	<p>良かった点・改善すべき点</p> <p>1、相談支援において、本人、御家族との信頼関係の構築と本人らしい生活が実現できるサービス等利用計画の提案。 2、大竹市障がい事業所との連携、情報共有を図り、各事業所の対応力を高める。 3、相談支援における安定的収入の確保。</p>	<p>具体的内容</p> <p>1、定期的なモニタリングにて、本人、御家族、各事業所からの聞き取り、情報から課題、問題点を的確に把握し速やかに事業所と連携を図り、課題解決に努めた。 2、今年度より事業所部会の代表を交代したが、引き続き事業所部会等へ出席し各事業所との情報交換、研修会へ参加し相談支援の対応力を高めた。 3、相談支援の収益の安定的確保の為、新規、各種加算等を積極的に取得し当初目標比103%に対し106%の実績となった。</p>
<p>今年度の重点目標</p>	<p>重点目標</p> <p>1、相談支援において、本人、御家族との信頼関係の構築。 2、相談支援において、収益の安定的確保。前年比102% (2,140千)</p>	<p>具体的な計画・方策</p> <p>1、相談支援において、モニタリングを活用し御家族、本人、各関係機関からの情報により問題、課題を的確に把握しスピードを持って対応し、早期に課題解決に繋げ、本人、御家族との信頼関係を築く。 2、相談支援における収益において、新規獲得、加算等を積極的に取得することにより、安定的に収入を確保する。目標数値、前年収入比：102% (2,140千)</p>

2024年度 事業計画

事業所名 訪問看護ステーション ゆうあい

<p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月間利用者数 28名 ・月間延べ回数 210回 	
<p>昨年度の評価</p>	<p>良かった点・改善すべき点</p> <p>1、訪問施設でのコロナ感染蔓延時、利用者のニーズに応じて継続したサービス提供に努めた。</p> <p>2、訪問先での看取り看護が実践できた。</p> <p>改善すべき点</p> <p>1、訪問先でのケアスタッフと認識の違いが多々あった。</p>	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持の援助、感染予防の療養指導、施設スタッフへの感染対策の助言等実施することにより、実績の維持に繋がった。 ・ゆうあいの里新規入所者のコロナ感染による体調不良で新規訪問依頼があり。情報が少ない中、迅速に対応し主治医の指示のもと点滴を実施した。 ・主治医より特別訪問看護指示のもと毎日の褥瘡処置実施により早期治癒に至った。 ・訪問看護利用者の看取りが2件あった。日常生活の延長上に看取りがあり、住み慣れた場所で最期を迎えられるよう援助ができた。 ・排泄援助、感染対応、身体拘束について。統一したケアが出来るよう助言や指導を試みたが理解が得られなかった。
<p>今年度の重点目標</p>	<p>重点目標</p> <p>1、利用者様のQOLの向上、ADLの維持できるようにサービスを提供する。</p> <p>2、専門知識、技術の習得に努める。</p> <p>3、感染症蔓延時、業務継続ができる体制を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いに寄り添い、丁寧に誠実に接する。 ・利用者の状態の変化に応じ医務スタッフと速やかに情報共有し施設生活が継続できるように健康管理に努める（入院に繋がらない）。 ・多職種と連携を図り、ケアの統一を目指す。 ・ケアスタッフへの助言、指導を適宜実施する。アプローチを続ける。 ・WEB研修、地域医療従事者研修会などへ参加し知識技術の習得に努める。 ・BCPに基づいた訓練を実施する。 	

2024年度 事業計画

事業所名 グループホームふきのとう

数値目標	ベッド稼働率の目標を月平均96%とする。(2022年度は86.9%、2023年度96.5%見込み) 昨年看取り希望されていたものの対応しきれず断念して施設や病院に移った方が2名おられた。今年度は看取り希望者に対応できるよう、人材の確保とスキルアップを図りたい。	
昨年度の評価	良かった点・改善すべき点 <ul style="list-style-type: none">比較のお元気な方が新規で4名入られ、長期入院等が少なかったためベッド稼働率96%の目標が達成見込みである。コロナ、インフルエンザへの感染を防ぐことができた。夜勤のできる職員減により、中堅職員の夜勤が増え、日中は非常勤職員のみでケアすることが増え、ケアの統一などの課題が出てきた。運営推進会議を再開した。	具体的内容 <ul style="list-style-type: none">職員のコロナ感染はあったが、基本の感染予防策を徹底して行い、感染を防ぐことができた。定期的な職員ミーティングや勉強会の開催ができなかった。
今年度の重点目標	重点目標 <ol style="list-style-type: none">入居者様の「したいこと」などの要望を聞き、実現に向けて動く。職員一人ひとりが入居者様のために提案したり、動くことができるような人材育成を行う。重度化、看取りへの対応に備える危機管理体制を整える。	具体的な計画・方策 <ul style="list-style-type: none">入居者の担当者を決め、月2～3回の定期的なケアカンファレンスとグループホームミーティングを実現する。その際、本人の要望や希望を目標に入れる。研修や勉強会に非常勤職員も入っていただく研修参加職員からの伝達研修の機会を作る。業務分掌を見直し、再配置する。夜勤のできる介護職員を確保する。重度化が考えられる方に対しては早期にご本人、ご家族、かかりつけ医と相談し、重度化した場合の体制を予測しておく。グループホームでの重度化対応について学ぶ場を作る。感染予防、緊急時対応、避難訓練を研修計画に位置付け、BCP研修を開始する。

2024年度 事業計画

事業所名 小規模多機能ホームふきのとう

数値目標	訪問人員の強化と、宿泊を週2日以上対応できるように体制を整え、登録者数月平均19人（2022年度は16.9人、2023年度は18.1人見込み/定員20名）を目指す。	
昨年度の評価	<p>良かった点・改善すべき点</p> <p>2023年度目標の登録者月平均18人を達成することができ、ここ数年で最大の収入を得た。 玖波包括支援センターをはじめ、居宅介護支援事業所や病院の地域連携室に信頼を得ることができ、利用者の紹介を増やすことができた。 一方で、医療ニーズの高い方、連泊希望の方、1日の訪問回数が多い方などには対応しきれず、他の事業所を紹介した。</p>	<p>具体的内容</p> <p>独り暮らし、認知症、ご家族が遠方で行き来しにくい方を積極的に受け入れ、通院介助、買い物、与薬確認の回数を増やすことで生活が成り立つよう尽力した。 一方で、認知症状が強くなり利用回数を増やしたいというご家族からの要望も増加したが、人員不足と他利用者との兼ね合いなどで対応しきれないケースも増えた。</p>
今年度の重点目標	<p>重点目標</p> <p>①今後も増加するであろう独り暮らし、認知症、ご家族が遠方、困難事例を支えることができるよう、訪問介護要員、夜勤者を確保して訪問の強化を行う。</p> <p>②自ら利用者様のために考えて提案、行動できる職員の育成のため、パートを含めた研修やケースカンファレンスを定期開催する。</p> <p>③危機管理体制を整える。</p>	<p>具体的な計画・方策</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問のできる介護職員、夜勤者を確保する。・研修や勉強会に非常勤職員も入っていただく・研修参加職員からの伝達研修の機会を作る。・月1回ケースカンファレンスを実施する。・感染予防、緊急時対応、避難訓練を研修計画に位置付け、BCP研修を開始する。